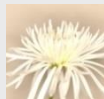


SAKU らいぶ 54号

図書館だより



平成26年11月号

作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部 図書館

[内容]

- ・背表紙の森を、ぶらぶらと…。
- ・竹久夢二の世界に触れてみよう
- ・SAKUらセレクト
- ・季を愛でる
- ・らいぶ Question
- ・らいぶ Question 解答者のコメント
- ・図書館開館カレンダー

背表紙の森を、ぶらぶらと…。

作新学院大学女子短期大学部 教授 西田直樹

本には、四つの表紙があります。「表紙」「中表紙」「裏表紙」「背表紙」です。この四つの「表紙」の中で一番面積が少ないのは、背表紙でしょう。しかし背表紙には、本の題名や巻数、著者名、出版元、時には副題という具合に、その本にとって重要な情報が凝縮されています。日本人が、この背表紙と日常的に接するようになったのは、明治時代以降、洋装本の普及と共に…という事になります。少々大げさな表現ですが、背表紙とは、日本人にとって「近代」を象徴するものの一つであったのかも知れません。大学の教員が本棚をバックに写真を撮られる事が多いのも、そんな背表紙の性質によるものなのではないでしょうか？

作新学院大学の図書館は、多くの蔵書が開架の形式で置かれています。ズラリと並んだ専門書類の背表紙を眺めながら図書館の中を歩くのは、私にとってとても楽しい時間です。私の母校の図書館は狭くて閉架式でした。確か4年生になるまでは、書庫に入る事ができませんでした。それに比べると、作新学院大学の図書館は開架式ですから、学生にとっても良い利用環境だと思います。



自分の専門以外の書架を、ぶらぶらと歩きながら背表紙を眺め、気になる本があれば読んでみる…。新しいアイデアというものは、案外そんな余裕のある時間の中から生まれるものかも知れません。



竹久夢二の世界に触れてみよう



竹久夢二生誕 130 年に当たる今年は、全国的美術館やギャラリーで記念の展覧会が開かれています。

益子町にある『つかもと平成館』にて 11 月 4 日まで開催されている『竹久夢二展』を観に行きました。「美人画」と「子ども絵」を中心に約 100 点が展示されていました。

いわゆる「夢二式」と表現される美人画は、たおやかなスタイルとどこか寂しげな表情を持ち、見る者に豊かな情感と憧憬を与えます。現代の女性から見てもはっとするほどお洒落で、そのファッションを取り入れたくなるほどです。

子供向け雑誌の表紙や挿し絵を手掛けた子ども絵は、ほほえましい表情が柔らかなタッチと美しい色づかいで描かれ、とてもチャーミングです。

ほかにも、この展覧会では夢二のデザイナーとしての顔にも注目し、楽譜の表紙の巧みな構図やレタリングの妙についても取り上げていました。

折しも本学図書館に「別冊太陽 竹久夢二の世界」(請求記号 726.5/Ta)が入りました。この本では、夢二の作った詩歌や俳句、撮影した写真、手掛けた商業デザインなどを通して、美人画だけではないマルチな才能が披露されています。また、夢二の絵画が恩地孝四郎や渋谷修など日本の前衛画家に多大な影響を与えたという、非常に興味深い逸話も紹介されています。

多才な活躍で一世を風靡し、時代を席卷した竹久夢二。さわやかな秋の日に展覧会に出かけ、また本を読み、その世界に触れてみるのはいかがでしょうか。そこでは大正ロマンの風が感じられるかもしれません。

SAKUらセレクト

～本学図書館にある珠玉の1冊を紹介します～

街物語 ねじめ正一・中沢けい. 他 913.68/Ma

東京＝ねじめ正一 鎌倉＝三木卓 ハンブルク＝多和田葉子……
世界の街をテーマに名うての作家たちが小編を紡ぎます。

作家の手に掛かるとこんなにも街の表情が豊かに描かれるのかと驚くばかりです。訪ねたことのない街でも、既視感を感じるのはすでに彼らの術中にハマっているのでしょうか。例えばこんな感じ「秋から冬へ、空が重たくなるにつれ、パリの寒さが澄んでくる。晒した素肌は、水晶に撫でられた感じで、体の芯に泡粒が立つ。夜のターミナル駅の吹き抜けには、コートの際を立てて足踏みする姿が散らばっていた。パリ＝荻野アンナ」

街を彩る人々の暮らし、表情、息づかいまでもが生き生きと目の前に浮かび上がります。

読んで小さな旅をしてみませんか。

季を愛でる

落 鮎

図書課長 野中千秋

「やな築」は、川をV字型に堰き止めて流れを集め、大きな青竹の上に細く割った竹で編んだすだれ簾を設けて、川魚を取る仕掛け。

築の上に乗る、産卵のため下流に下る鮎や鰻がいなくて川面を望むのは、爽快で気持ち良い。鮎は一年魚だから生活した川との最後のお別れになる。

鮎下る山の記憶を全身に

千秋





らいぶ Question

火山災害

池谷浩 著 中公新書 369.3/1k より

火山国日本に住む限り、火山と共存することが必要(①)である。われわれ人間が一方的に火山の恵みを(②)するだけではなく、火山のことを知り火山と付き合う(③)が必要である。

図書館にある資料から出題します。答えはカウンターにある解答用紙に記入してください。全問正解で1ポイントです。今年度中に5ポイント集めた方には、記念品を贈呈します。

らいぶ Question に答えて記念品を GET した比田井さんのコメント!!


せっかく図書カードをいただいたので、久しぶりに本屋さんへ行きたいと思います。また、もっとたくさんの方に SAKU らいぶを読んでほしいです。


経営学部 1 年 比田井悠さん



図書館開館カレンダー11月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

 9:00~18:00

 9:00~13:30

 休館日



~~~~~ 発行・編集 ~~~~~  
作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部 図書館  
Tel 028-670-3651・3652  
Fax 028-670-3619  
E-mail [tosyo@sakushin-u.ac.jp](mailto:tosyo@sakushin-u.ac.jp)  
URL <http://www.sakushin-u.ac.jp/library/>